

基礎自治体がやるべきことを 自覚し実行せよ



国分寺・生活者ネットワーク 片畑 智子

問) 国が進めている社会保障制度改革であるが、「補完性の原理」に照らし合わせると、国はあくまでもベースラインを定め、基礎自治体が対象者との面接を含め詳細な調査を実施する中で決定するしくみとする方が無駄な支援は淘汰されると共に、適切な支援が実行されると考える。実は万全ではないが、現行の法律や制度でも基礎自治体の裁量で対象者の実情に添い、効果的なサービス提供は可能である。しかし、裁量権がありながら、本市では責任や労力を伴う独自の取り組みを避けるきらいが見える。分権改革推進と、自治体独自で判断し決定していく責務を担うことは同一であるが、本市の職員に、その覚悟や高揚する意識を感じることができない。

市長) 自治基本条例に地方主権という考え方がある。自ら政策立案できる自治体になるためには、行政職員の政策形成能力を高めるべきと事あるごとに呼びかけてきた。指摘を反省材料としてしっかり取り組んでいきたい。

問) 現在実施されている様々な職員研修を見ると、ルールやマニュアルを学ぶ機会はあるけれども、行政職員として一番大切な持つべき哲学を共有し、繰り返し一人ひとりに叩き込んでいくという、最も要となるべき部分がなござりにされている。「何のために、誰のために、何をしようとしているのか」という確固たる哲学が個人の中になければ、いくら裁量権が拡大しても、市民のために発揮することはできないと考える。

市長) 以前議会質問で、福祉に必要な心は何かと聞かれ、「思いやり」と答えた。しかし、現状では、まだまだ道半ばのところがあるとは感じている。提案を受けとめ、努力したい。

問) 地域福祉推進の一つの方策として、地域センターを「地域の核」と位置付ける提案をしてきた。今後センターが指定管理者制度に移行するが、地元精通していない事業者よりも住民による管理運営主体が望ましいと考える。地域内の個々の力をつなぐ一つの策として退職職員に力を発揮してもらうのはどうか。

市長) 提案の意味はよく理解できる。私も間もなくその仲間入りをするので、地域を盛り上げるために、しっかり活動していきたい。

問) 子ども家庭支援センターにおける相談支援業務に対して、様々な観点から重大な指摘をし、このような事態に至るまで放置してきた市長の責任を問うとともに速やかに適切な措置を断行することを求めた。相手に共感し相手の立場になって考える姿勢なくして、職員数ばかり増やしても、市民を救うことはできない。先日の運営協議会で、小平児童相談所の所長から「質の向上を図るために、児童相談所での研修をしてはどうか」との発言もあったと聞く。センター職員の外部派遣研修を求めるが、いかがか。

市長) 支援をしていく上でプラスになることであれば、当然勉強の機会として参加をさせたい。

問) 厳しい社会情勢は青少年期の子どもたちにも重くのしかかっている。中学卒業後の子どもや家庭の相談・支援体制が中途半端であることも子ども家庭支援センターの大きな課題である。

市長) 大きな問題提起として受けとめ考えたい。

安定した政治基盤で 継続的な行政運営を!



無会派(みんなの党) イトウ 太郎

イトウ) 星野市長は次期市長選挙には出馬しない意向を表明いたしました。私といたしましては、これまで、国分寺駅北口再開発や都市計画整備の進捗が遅れている最大の要因は安定した政治基盤が国分寺市に無かったからだと思えます。それは、これまでの国分寺市の歴代市長が「保守派」と「革新派」という様な政治的な考え方が違う市長に幾度も変わるという歴史的経過が度々あったからです。そう考えると、再開発や都市計画等の現在進行中である大きな事業は市長が新たに変わったとしても円滑に進めていかなければなりません。行政の継続性ということについて市長の考えをお聞かせください。

市長) 例えば、本市の都市計画道路の進捗率が多摩26市の中で25番目と低い状況等であることには、低い状況なりの事情と経過がありました。そのことの一つとして、やはり長期間を要する大きな事業を行う上では政治的な安定性が必要になると思えます。しっかりと国分寺市政が受け継がれていくように努めていきます。

イトウ) これまで12年間の市長による功績にも触れたいと思えます。西国分寺駅東地区再開発事業に始まり、国分寺駅北口再開発事業でも一定以上の目的を立たせた保育園等の民営化により市民に大きな利益をもたらしたものと考えます。更に、ごみの共同処理についても残る任期にてできる限り良い道筋を作っていたいただきたい。

市長) まだ大きな課題がありますので、今後の市政の負担をできる限り軽減できるように残りの任期を最大限勤め上げて参りたいと思えます。

陳情の審議結果

第1回定例会では陳情2件が提出され継続中の4件と併せて審議した結果、継続4件、取り下げ1件、審議未了1件となりました。

《継続となった陳情(付託先)》

陳情第25-1号「西東京警察病院跡地利用に関する陳情」(総務委員会)

陳情第25-2号「保育サービスの整備・運営及び提供体制に関する全体計画に対する陳情」(厚生委員会)

陳情第24-21号「『市民の公民館の利用を有料にしないでください』についての陳情」(文教委員会)

陳情第24-22号「米軍垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの配備と低空飛行訓練に関する意見書の提出を求める陳情」(総務委員会)

《取り下げとなった陳情(付託先)》

陳情第24-10号「西国分寺駅から東恋ヶ窪交差点まで府中街道にぶんバス路線を求める陳情」(建設環境委員会)

《審議未了となった陳情(付託先)》

陳情第24-19号「建設業従事者のアスペクト被害者の早期救済・解決を図るよう国に働きかける意見書の提出を求める陳情」(厚生委員会)

辞める市長が通年で 新規も含む予算編成はNG



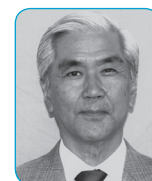
無会派(無所属) 甲斐 よしと

甲斐) 来年度3ヶ月と12日で辞めると決めた市長は新市長に配慮した予算を組むべき。記者会見で「骨格に近い予算だ」と言うが、単に財源が無く新規等が少なくなっただけだ。結果、新規等の政策判断に理念も無くバラバラだ。新市長がこの予算の何かを削って、新たなものを補正予算として変えればよいという答弁は乱暴だ。

市長) さらに盛り込みたい新市長が臨時財政対策債を借りなければ他の事業を削らざるを得ないだろうという意見で申し上げた。

甲斐) ならば純粋な骨格予算にすべきだ、加えて副市長2人の辞表もいただききれいに去るべきだ。新市長が同じ人を指名することもできる。粗大ごみの民間委託で6500万かかるが、今までの担当者の行き先が決まってない不明の予算だ。

市長は新年度予算の 考え方を市民に示すべき



無会派(社民党) 釜我 健二

釜我) 平成25年度の市長の施政方針は、わずか10ページで従来の1/3しかない。これでは市民も議会も、どういう考えで市長が25年度予算を編成したのかほとんど分らない。市長は例年通り施政方針をきちんと示すべきだったのでは。

市長) 絞り込んだ結果だが、配慮不足だった。

釜我) 「公民館だより」における議会無視の件では、教育長は責任を示し、事務改善もはかられた。しかし全国的には教育委員会制度への厳しい動きもある。何としてもこの教育委員会制度を守るために緊張感をもった努力が必要だ。

教育長) 今回の件では非常に反省をしている。教育委員会制度は大切だ。当市では市長も市教委を敬意で見ている。教育委員会・事務局あげて緊張感をもって努力を続ける決意だ。

「日曜議会」を開催

今定例会の初日(2月22日)に、市長から施政方針が発表され、それに対する各会派からの代表質問を2月24日(日)に行いました。

当日は多くの市民の方が来場され、議会を傍聴されました。

国分寺市議会では、今後も「日曜議会」の開催を継続し、「開かれた議会」となるよう取り組んでまいります。

議事担当(内468)

音声配信について

市議会では、平成25年2月24日に行われた第1回定例会「代表質問」の模様を、本会議録が完成するまでの間(5月30日予定)、国分寺市議会のホームページで音声配信しております。ぜひご活用ください。

議事担当(内468)